

# 楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.21

日時	2013年7月13日
行脚先	平井山ノ上付城跡 (秀吉本陣跡)
住所	兵庫県三木市 (播磨国)
行事名	竹中半兵衛法要祭

## 特徴

羽柴秀吉が三木城攻めの本陣とした付城です。美囊川と志染川の間に面した山上に位置しており、南西に三木城を望むことができます。

天正6年(1578年)7月、織田信忠が当地に着陣して築城し、羽柴秀吉に引き渡したとされています。同年10月15日、秀吉は平井山に津田宗及を招き、記念すべき初めての主催となる茶会を開催しました。本陣設立により補給が困難となった別所氏は同22日に本陣を襲撃し、平井山合戦が繰り広げられます。これにより別所治定などが討ち死にし、別所方は敗北したと言われています。

城の構造については、数多く残る三木城攻めの付城群の中で最大の規模を誇り、三木城の反対側の谷部に雛壇状の曲輪群を設け、軍勢の駐屯部を確保しています。これは、三木城から付城内の軍勢の状況が見えないようにするためと言われています。秀吉本陣跡の位置については、従来は当城の谷を隔てた北側の山上の城跡とされていました。しかし、江戸時代前期に描かれた『諸国古城之図』(浅野文庫所蔵)に収められている「播磨国平井山」の絵図を頼りに現地確認及び測量調査を実施したところ、当城が絵図と酷似していることが判明したそうです。これにより、この地点が秀吉本陣跡であることが明らかとなりました。

## 黒田官兵衛との関わり

「三木の干殺し」と呼ばれる兵糧攻めで有名な三木合戦の舞台となった箇所の一つです。

天正6年(1578年)3月から天正8年1月17日(1580年2月2日)にかけて行われた織田・羽柴氏と別所・毛利氏の合戦で、黒田官兵衛は織田・羽柴軍として先陣を切っていました。

## 記録

